

信州大学農学部
2009. 6. 15.

信州大学農学部は、人と野生動物との軋轢に関連する諸問題を解決する人材養成を目的とした信州大学農学部野生動物対策センターを本年2月に設置しました。これを記念する発足記念シンポジウムが6月7日（日）に開催され、市民、学生あわせて102名が出席しました。

発足記念シンポジウムに先立ち、野生動物対策センターの拠点である“食と緑の資料館「ゆりの木」”において、野生動物対策センターの上掲式を行いました。

シンポジウムでは、財団法人 長野県林業労働財団理事長の加藤英郎氏が長野県の鳥獣保護行政をふまえた「野生動物対策センターに期待するもの」について講演し、続いて、群馬県農政部技術支援課有害鳥獣対策主監 久保寺健夫氏が「野生動物対策に向けた県と大学との新たな取り組み」について群馬県の事例を発表しました。信州大学農学部竹田謙一准教授は、長野県は全国的に農作物被害が極めて顕著で、他県と比べて加害獣種も非常に多いことから、鳥獣害対策のモデル地区になりうるとし、長野から全国に向けて情報を発信していこうと訴えました。

最後に、岡野哲郎 野生動物対策センター長を座長に、官民学で連携した野生動物対策の人材育成と情報発信の推進に向けて熱のこもったパネルディスカッションが行われました。

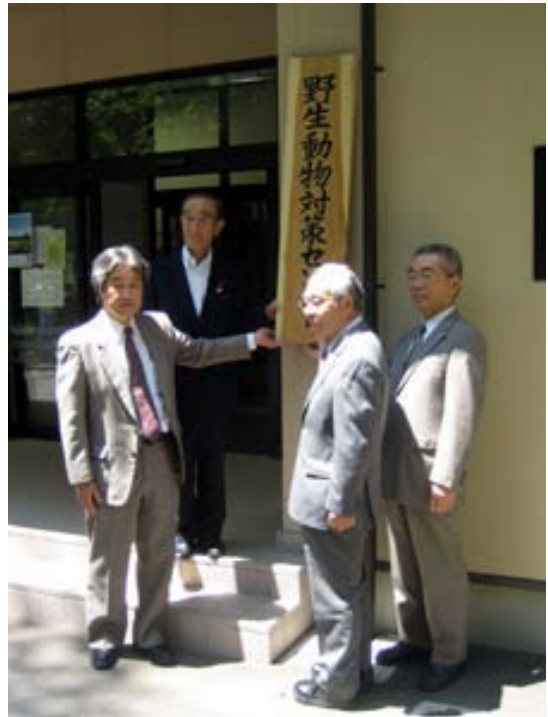


写真 上 野生動物対策センターの看板を掲げる唐澤農学部長、白井理事、小坂伊那市長、岡野センター長（右から）

左下 挨拶する唐澤農学部長

右下 パネルディスカッション